

# 議会報告会 会場報告書

担当班：2班 班代表者：大西 基雄

| 概要   |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 地区名 : 大芋地区<br>日時 : 令和元年5月15日 (水)<br>19:30~21:15<br>場所 : 旧大芋小学校<br>参加人数 : 11人(男11人・女0人) | <b>【出席議員】</b><br>大西 基雄<br>栗山 泰三<br>小島 政行<br>園田 依子<br>田村 直也<br>國里 修久 | (1) 開会あいさつ : 大西 基雄<br>(2) 議会報告 : 小島 政行<br>(3) 質疑応答 : 下記参照<br>(4) 意見・提言等 : 下記参照<br>(5) 閉会あいさつ : 國里 修久 | 挨拶・総括 : 大西 基雄<br>司会進行 : 栗山 泰三<br>報告 : 小島 政行<br>受付・記録 : 國里 修久<br>園田 依子<br>会場 (マイク) : 田村 直也 |

## 【主な質疑】

| 質疑・意見  | 回答   |
|--|--|
| ・民生福祉常任委員会で診療所の廃止と巡回診療車の視察に行ったということは市内の診療所が廃止される予定があるのか。そうでなかったとしてもこのような内容の視察をするなら診療所が無くなるのかという心配をしてしまう。今後も人口減少地域の住民の状況や思いは受け止めて欲しい。 | ・市内においてそういう話が上がっているということではなく、巡回診療車という取り組みに重きを置いて調査を行ったもののご理解いただきたいと考えます。いただいたご意見は議会で共有いたします。 |
| ・市議会議員の定数を削減することは、慎重に議論するとともに、市民の意見も聞きながら、進めていっていただきたい。市議会議員は、地域の願いを市政に反映する重要な役割を担っている中、議員定数を削減すると議会の機能が低下するので削減するべきでないと考えます。        | ・いただいたご意見を議会で共有するとともに、今後の議会運営において、参考にさせていただきます。  |

| 質疑・意見   | 回答  |
|---|---|
| <p>・まちづくり協議会は、知恵と工夫によって、より良い地域をつくろうと、地域住民が自分たちのために活動していくものである。しかしながら、担い手が少なくなっている中、どの地域においても、まち協の運営ができなくなる可能性がある。まち協のあり方について、研究・調査をしていただき、まち協に対する行政の支援も含めて、検討して欲しい。</p>   | <p>・いただいたご意見は、議会で共有させていただきます。</p>   |
| <p>・小規模自治会の調査に関して、議会の受け止め方が甘いと感じる。高齢化が進む中、自治会役員を選出することも厳しい状況になりつつある。また、数合わせで人を選出してしまえば、各種団体の運営に影響が出るかもしれない。こうした状況の中、時間的余裕がある状況ではなく、緊急的な課題であることを意見しておく。なお、広域自治会（3つも4つも）が寄って、役員をそこから選んでいくというような形が役員の負担軽減に繋がると考えている。</p> | <p>・いただいたご意見については議会で共有するとともに、役員負担軽減を図るご提案については、所管の委員会にお繋ぎします。</p>   |
| <p>・東部地域は、篠山に住もう帰ろう運動における重点地域になっているが、国が幼保無償化の決定をしたことから、東部を選択するメリットが薄れてしまうと考えている。人口減少の中、過疎化の進んでいる地域へ帰ってくるメリットが無くなっていくことから、別の支援を考えていただきたい。</p>  | <p>・ご指摘の点については、令和元年度施政方針において、「令和2年度に向けて丹波篠山市独自の新たな支援策を検討します。」と示されていることをお伝えするとともに、所管の委員会において、注視していきます。</p> |
| <p>・デカンショ祭りを見に行くとき、河川敷駐車場から会場までの距離が遠い。ふるさと納税の商品として、会場近くの駐車場を利用できる特典があればいいのではないかな。</p>   | <p>・いただいたご意見は議会で共有します。</p>  |
| <p>・人口減少にどの地域も例外はないが、行政が思い切った施策を立て、取り組んでいるところは、若い人や子育て世代が増えている。丹波篠山市ももっと大胆な施策に取り組んで欲しい。</p>   | <p>・いただいたご意見は議会で共有します。</p>  |

| 質疑・意見   | 回答   |
|---|--|
| <p>・移住・定住に係る雑誌において、当市は、アンケートに答えていないらしく、雑誌に掲載さえされていない。</p>   | <p>・宝島社の「田舎暮らし」という雑誌において、例年アンケート調査が全国の自治体に対して行われています。2017年頃の調査については回答していませんが、2018年度の調査については、回答しており、その結果が2019年2月に発行された「田舎暮らし」に掲載されています。</p> |
| <p>・丹波篠山市に移住した人の家が、シロアリ被害にあっている。大家としては、シロアリ駆除の費用を出す余裕もなく、住人も自己所有のものでは無いので費用を出せない。このような場合に、市から補助を出すことはできるのか。できなければ、このような補助を考えることで丹波篠山市へ移住する人が増え、また移住してきた人が踏みとどまることになるのではないか。</p> | <p>・いただいたご意見については、議会で共有いたします。</p>  |
| <p>・不法投棄のベッドが燃やされる事件が起きた中、不法投棄を厳罰化する等しっかりと取り締まるようにしていく必要があると感じている。藤坂から川阪に抜ける峠において不法投棄が行われており、監視カメラを設置する要望も出しているが、防犯や子どもを守ることを目的としたものである必要があり、不法投棄の監視は含まれていないことから、対応に苦慮している。</p> | <p>・県及び市において、防犯カメラの設置を補助する事業に取り組んでいますが、不法投棄の監視を目的としたものは、対象とならないとのことでした。いただいたご意見を執行部にお繋ぎするとともに、所管の委員会で見守ってまいります。</p>                        |